

③ 授業過程の展開例

前提能力の調査から、ひとりひとりの児童の実態と、それらを通して学級の実態が、いくつかは握された中で、特に次の2点を考慮して授業過程を組織した。

○ふくろの大きさを決める選定能力

この問題は88.2%の誤りがみられ、しかも正答11.8%の理由づけも、殆どあいまいであった。この実態から、知的理解のみの授業では抵抗が大きいと考えられたので、教師の考えによって「障子紙で袋を作ってみる作業」や大きさの異なる

なる「袋の標本を提示」するなどの配慮をする。

○ ゆるみと、ぬいしろについては、つぎのような正答率であった。

- わきのゆるみ——20.0%
- 口をしめるためのゆるみ——31.4%
- ぬいしろ——17.1%

上記については、標本でさいほう箱を実際に「出し入れする作業」をさせたり、「標本の観察」などさせ、よく理解し、判断させる作業とする。

第5学年 学習指導案

- 1 題材名 便利なふくろ
- 2 目標 省略
- 3 指導計画 省略 本時は2 / 10時間
- 4 本時のねらい

- 布地のふくろを作るにあたって、布の大きさの決め方を理解させる。
  - ア 布の大きさは、さいほう箱の大きさに、ゆるみとぬいしろを考えて決めることに気づく。
  - イ さいほう箱の大きさと、布の必要量の関係がわかる。
  - ウ ゆるみと、ぬいしろのだいたいの量がわかる。

※ 時間表示は経過時を表わす。

段階	学習の流れ	時間	教師の働きかけ	予想される児童の反応	指導上の留意点 ◎資料 ●評価
問題をとらえる	はじめ		○きょうの学習事項をたしかめましょう。	○本時の学習内容をたしかめる。 •袋の布の大きさを決める。	○前時に作成した計画表を活用させ、計画的に仕事をすすめる態度を養う。
課題をきめる	1 袋の大きさを話し合う。	5	○さいほう箱の袋はどのぐらいがよいか話し合ってみましょう。	○袋の大きさを考えノートする。 •箱の出し入れがらく •大きすぎると見苦しいし、箱のふたがずれやすい。 •その他	○学習カードの記入のしかたについて指示説明する。 ○自分の考えを話し合いによって修正する時は、学習カードの別欄に記入させる。 それによって思考の変容をとらえるようにする。
	2 学習課題の設定		○きょうの課題を決めましょう。	○箱に合った大きさの袋を作るには、布の大きさをどのように決めたらよいか。	○布の大きさを決めるという平面的思考を、袋の大きさという立体的なとらえ方から導入し、児童の理解の抵抗を少なくする。
見通しをたてる	3 箱に合った袋の大きさを考える。	10	○布の大きさをどのぐらいにしたらいいと思いますか。自分の考えによって障子紙で袋を作ってみましょう。	○自分で考えた製作方法をノートする。	それとともに、箱を立方体の6面体として考えるであろう児童の思考を、横まわりと縦まわりの関係をとらえる思考へと移
	4 発表		○各自袋を製作する。		